腫瘍センター 療法薬物部門

１．研修責任者
　山本　信之

研修医へのメッセージ

腫瘍センター薬物療法部門では、がん薬物療法を適切に実施できる患者を正確に診断し、安全に治療を行うことができる医師の育成を目指し、研修医を指導します。
卒後臨床研修では、医師として必要な基本的な知識や技術を修得するとともに、腫瘍領域における診療の知識や技術も可能な限り身に付けることを目標とします。
また、病気そのものだけでなく、患者を総合的かつ全人的に治療・ケアする姿勢を持ち、良好な医師-患者関係を築くこと、さらにはメディカルスタッフとの緊密な協力関係を形成することも重視しています。これらを念頭に置き、研修に励んでください。

２．一般目標
（１） がん薬物療法の適応に関して基本的な考え方を習得する。
（２） がん薬物療法に特有の有害事象マネジメントを習得する。

３．行動目標

Ａ．経験すべき診察法・検査・手技
（１）基本的な身体診察法
①問診および病歴の聴取と記録：がん薬物療法の実施に応じた的確な問診と病歴作成ができる。
②全身の観察（バイタルサインなど）と診察（頭頸部、胸部、腹部）ができる。
（２）基本的な検査とその解釈
①薬物療法の実施において重要な尿検査、血液検査、生化学検査、血清免疫学的検査、腫瘍マーカーについて必要な検査の指示と結果の解釈ができる。
②放射線検査：単純 X 線検査、CT 検査、MRI 検査、PET 検査について薬物療法の実施に必要な結果の解釈ができる。
③遺伝子検査の結果を理解することができる。
（３）基本的治療法
①薬物治療：薬物治療の適応、薬物の作用メカニズム、副作用について習得する。とくに、抗がん剤や分子標的薬剤の有害事象の判定方法と適切な支持療法について理解し、対応することができる。

B. 経験すべき症候、経験すべき疾病・病態
（１）頻度の高い症状：全身倦怠感、食欲不振、<u>嘔気・嘔吐</u>、<u>腹痛</u>、<u>便通異常（下痢・便秘）</u>、<u>体重減少・るい痩</u>、体重増加、浮腫、リンパ節腫脹、<u>発疹</u>、<u>発熱</u>、四肢のしびれ
（２）緊急を要する症状・病態：インフュージョンリアクション（輸注反応）、サイトカイン放出症候群、<u>ショック</u>、<u>呼吸困難</u>

※下線部は医師臨床研修指導ガイドライン-2023 年度版-に記載の 29 症候、26 疾病・病態に記載のあるもの。

（３）経験が求められる疾患
①造血器腫瘍
②呼吸器腫瘍
③消化管腫瘍

④乳房腫瘍
⑤その他の腫瘍

※様々な腫瘍のがん薬物療法が経験可能であるが、がん薬物療法専門医認定時に経験が求められる疾患を経験すべき疾患と定義した。

４．方略

---

(1) 指導体制
指導医のもとに１名の研修医を配属します。研修医は以下のように、週ごとに異なる腫瘍領域を担当します：

- **1 週目**：造血器腫瘍
- **2 週目**：呼吸器腫瘍
- **3 週目**：消化管腫瘍
- **4 週目**：乳房腫瘍

各週で、外来薬物療法センターで化学療法を受けている患者を１名担当します。また、実際に薬物療法を実施しながら、指導医や上級医とともに有害事象マネジメントを学びます。担当患者数や対象疾患は、研修医の習得状況や将来の専門選択に応じて調整します。

---

(2) 診療録記載
研修医は担当患者の診療後、速やかに診療録を記載します。指導医・上級医はその内容を確認し、必要に応じて指導を行います。その際、問診、診察、検査結果の解釈についても指導を行います。身体診察が必要な場合は、指導医・上級医が立ち会います。

---

(3) プレゼンテーション実施
研修医は 2 週間に 1 度開催される腫瘍内科のカンファレンスで、担当した 1 症例についてフルプレゼンテーションを準備・実施します。この際、指導医・上級医が事前に内容を確認し、指導を行います。

---

(4) 各種オーダー実施
指導医・上級医は研修医の習得状況を確認しながら、指示、処方、注射、検査などのオーダーを経験させます。その際、基本的な治療法について十分理解できているか確認しながら指導を行います。

---

(5) 各種手技実施
指導医・上級医は研修医の習得状況を確認しながら、各種手技の経験を積ませます。特に、皮下埋没型中心静脈ポート（CV ポート）穿刺は頻度が高く、安全に化学療法を実施するうえで必須の手技であるため、研修中に確実に習得できるよう指導を行います。

---

(6) エキスパートパネル参加（希望に応じて）
近年の薬物療法では、遺伝子変異の理解が必須となっています。そのため、研修医が希望する場合、エキスパートパネルに参加する機会を設けます。この場で遺伝子変異に基づく治療選択、治験や臨床試験へのリクルートなど、がん薬物療法の専門家に必要な基礎知識を指導します。

５．週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前 薬物療法センター	担当患者選定	がん薬物療法に関する勉強	プレゼンテーション準備	がん薬物療法に関する勉強	がん薬物療法に関する勉強
午後 薬物療法センター	担当患者病歴収集	腫瘍内科ミーティング(2週間に１回) エキスパートパネル（希望者）	プレゼンテーション準備	上級医に症例プレゼンテーション	次週症例の確認

適宜：CV ポート穿刺

6. 評価方法

PG-EPOC を用い評価する。評価者は、診療科長・外来薬物療法センター看護師長などとする。

１）知識

・腫瘍内科ミーティングや木曜日のプレゼンテーションにおいて、適宜各疾患について質問を行い、知識の習得状況を評価する。

２）技能

・指導医、上級医立会いのもとで各種手技を実施し、習熟度を考慮した上で研修医単独で実施する機会を与え、技能の習得状況を評価する。

３）態度

・指導医、上級医、看護師、その他メディカルスタッフからも意見を聴取し、医師として相応しい態度の習得状況を評価する。

・診療録、病歴要約の適切な記載ができているかも評価する。

（診療録には EBM を意識した記載、病歴要約には考察が含まれているか評価する。）